

概要

序論

映画は、ドラマ、コメディ、謎、恐怖、歴史、探偵物語など、さまざまなカテゴリーで制作されている。物語は、元のシナリオ、適応の小説、漫画、または真実のストーリーから来ることができる。歩いても一歩いても映画は、2008年にリリースされた。是枝裕和の監督が制作した映画である。この映画はドラマのジャンルである。この映画は家族のことを話している。大人になって結婚している子供たちがまた両親の元の家に戻ってきた。それらの長男の死を記念して集った。この物語は夏の日の24時間にあると話した。

家族の再会は通常の再会のようにされる。集って、話して、一緒に食べる。しかし、明らかにまだ失望し続けている2人の人がある。彼らは父親と育った二番目の息子である。明らかに失望の理由がある。横山恭平の父親は引退した医者である、彼は子供たちが医者になることを望んでいる。長男は医者になると家族の診療所を続けることができる。彼は子供に海で沈んだ子供を救うため、亡くなった。しかし、父親の希望に反対する子供が1人いることが判明した。彼の第二の息子は兵士になる。両親が失望したもう一つのことは、以前に結婚していた女性と結婚することを好んだ。

この研究から、著者は、横山恭平の父親がどんな要因によって侵略になったのを分析する。本研究の目的は、横山恭平の父親の性格が積極性を理解している。定性的記述法を用いた本研究で用いた方法である、文学心理学のアプローチと社会心理学の理論を通して文学心理学に関連する基本的な参照理論としている。この研究では、使用するデータのタイプは、質的データのタイプを含む。なぜなら、この研究は口頭、事象、行動の形でデータを用いて行われる。この研究の記述方法は映画の歩いても一歩いでもの中の横山恭平の父親の姿で起こった積極性のアイデアを目指している、次に心理学的な理論を用いて追跡し理解される。

歩いても一歩いても映画は作家が見る文学作品である社会心理学的手法を用いて検査することが適切である、なぜなら、映画は欲求不満の心理的症状を明らかにするからである。専門家によると失望からの欲求不満と防御メカニズムに個人の積極性結果をもたらす。

Charles N. Cofer によると、個人の望む目標の達成が阻止されれば、挫折が起こるだろう。これは、個人が達成する目標を持っていることを意味する。様々な原因の存在により、目標は達成できなかった。David Krech と Richard S. Crutchfield によると、目的に対する欲求が塞がし、根底にある緊張が解消されなければ、それは失望と呼ばれる (Santoso、2010 : 121-122)。

本論

歩いても一歩いても映画の中で横山恭平は研究の対象となった。横山恭平は積極性の態度を示したからである。積極性は、社会心理学の研究に含まれている、著者は横山恭平の積極性の原因を分析するために使用している。

著者は横山恭平の侵略を 5つの主要な部分に分けてシーンから見ることができる、すなわち：

1. 間接的な物理的受動的の積極性である。
 - 京平の無関心。
 - 家族と一緒に写真を撮る。
2. 直接的な受動的口頭の積極性である。
 - 帰宅する。
 - 一緒にチャットすることはない。
3. 間接的な口頭アクティブの積極性である。
 - 意図的に吸い込むくない。
4. 直接的な口頭アクティブの積極性である。
 - 簡単に怒る。

- 今まで復讐である。
3. 間接的な受動的口頭物理的アクティブの積極性である。
- 全員。

結論

データの分析から、次の結論をすることができる。欲望が届かないので無意識で横山恭平は侵略的に色々なことする。未解決の欲望向けの失望の要因は挫折するようになった。それは、侵略的な横山恭平に影響を与える。

横山恭平は医者であるため、彼の息子を医者にしたいと考えている。希望の実現を妨げる現実は無意識に侵略的な人にする。年齢要因と視力の問題が、横山恭平が積極的だった理由となった。著者が記述した結論は、著者が前の章で伝えた理論を参照している。著者はいくつかの結論では、映画の出来事に基づいて。理論的に見出されない事象に結論する。

DAFTAR ISI

	Halaman
DAFTAR ISI	i
HALAMAN PENGESAHAN	iii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iv
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	v
KATA PENGANTAR	vi
BAB I PENDAHULUAN	
1.1. Latar Belakang	1
1.2. Pembatasan Masalah.....	4
1.3. Tujuan Penelitian.....	4
1.4. Metode Penelitian.....	4
1.5. Organisasi Penulisan.....	7
BAB II LANDASAN TEORI	
2.1. Psikologi Sastra	9
2.2. Telaah Sastra melalui Pendekatan Psikologi	12
2.3. Psikologi Sosial sebagai Acuan dalam Meneliti Karya Sastra.....	15
2.3.1. Indikator Agresivitas dalam Karya Sastra	18
2.3.2. Bentuk-bentuk Agresivitas.....	20
2.3.3. Faktor yang Mempengaruhi Agresivitas	21
BAB III AGRESIVITAS TOKOH KYOHEI YOKOYAMA	
3.1. Sikap Agresi	24
3.1.1. Agresivitas Fisik Pasif Tidak Langsung.....	25
3.1.1.1. Ketakacuhan Kyohei	25
3.1.1.2. Berfoto bersama Keluarga	28
3.1.2. Agresivitas Verbal Pasif Langsung.....	31
3.1.2.1. Pulang Berjalan-jalan	31
3.1.2.2. Tidak Ikut Bercengkerama	33
3.1.3. Agresivitas Verbal Aktif Tidak Langsung	35
3.1.3.1. Tidak Sengaja Menyindir	35
3.1.4. Agresivitas Verbal Aktif Langsung	37

3.1.4.1. Mudah Marah.....	37
3.1.4.2. Masih Menyimpan Dendam	39
3.1.5. Agresivitas Verbal Pasif Fisik Aktif Tidak Langsung	42
3.1.5.1. Menyendiri.....	42
3.2. Pandangan Umum Terhadap Film <i>Aruitemo-Aruitemo</i>	45
BAB IV KESIMPULAN.....	48
SINOPSIS	ix
DAFTAR PUSTAKA	xii
RIWAYAT HIDUP PENULIS.....	xiii

